

藻類養殖漁場環境調査

池脇義弘・吉田和貴・平野 匠

鳴門市北灘町～阿南市中林町地先におけるアマノリ及びワカメ養殖漁場において、養殖期間中の水質環境を調べ、漁業者が適切な養殖管理を行うための漁場環境情報を提供する。

方 法

調査は図1に示したアマノリ養殖漁場12点、ワカメ養殖漁場19点において、平成30年10月から平成31年3月の間、月2～4回の調査を実施した。

徳島県海苔研究部員及びワカメ養殖業者が採取した養殖漁場の表層水の塩分、無機溶存態窒素（DIN）及びプランクトン密度について調査した。塩分測定にはポータブル電気伝導率計（東亜ディーケーケー社製、CM-31P）を用いた。また、試水をGF/Cフィルターで濾過した後、自動流れ分析装置QuAatro（ビーエルテック社製）で栄養塩を分析した。また、植物プランクトンのうち、*Coscinodiscus walesii*、*Coscinodiscus* sp.、*Eucampia zodiacus* を計数した。

結果は速報として、関係漁協に情報提供するとともに、水産研究課のパソコン及び携帯電話向けホームページに掲載した。

結 果

各調査地点のDIN濃度と塩分濃度をそれぞれ図1、2に示した。

また、色落ちの原因となるケイ藻のうち*C. walesii* と *E. zodiacus* の密度を図3、4に示した。

なお、本調査は、漁場改善実証事業の結果の一部である。

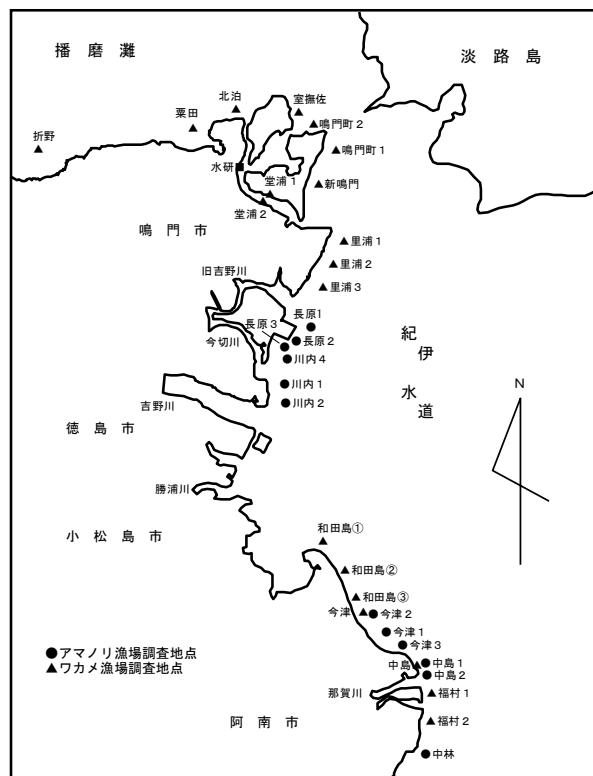


図1. 調査地点

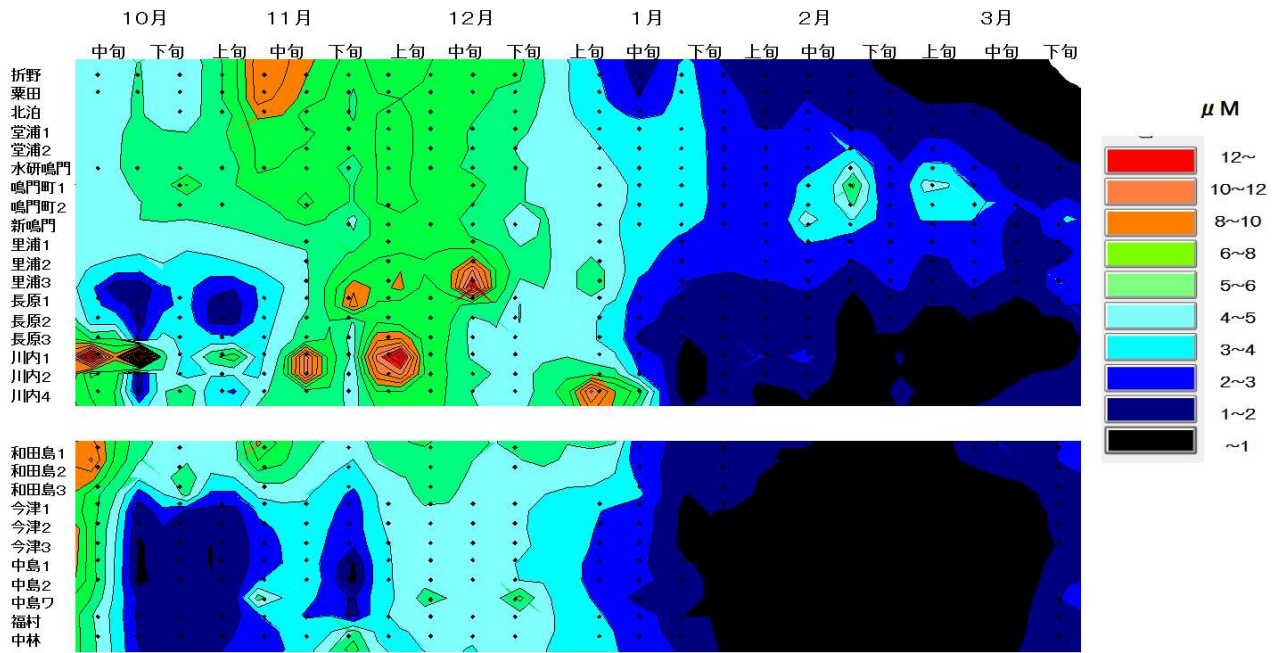


図1. H30年漁期の藻類養殖漁場のDIN濃度コンター図.

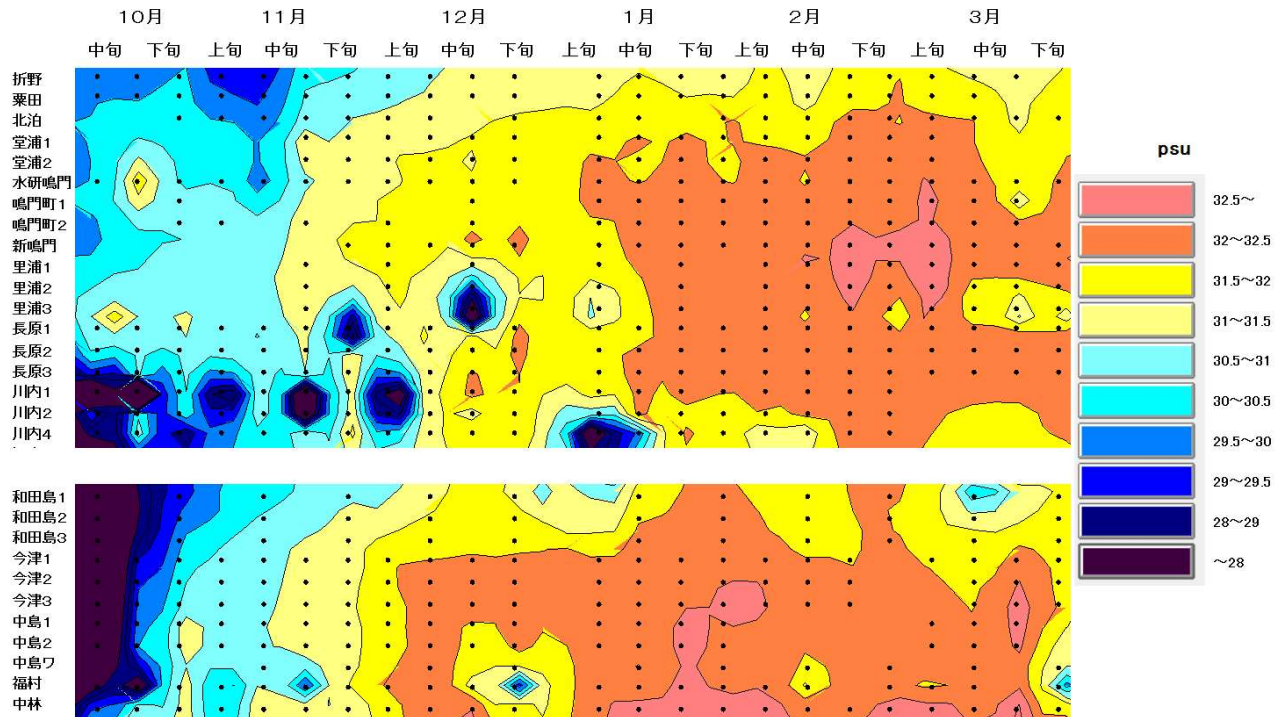


図2. H30年漁期の藻類養殖漁場の塩分濃度コンター図.

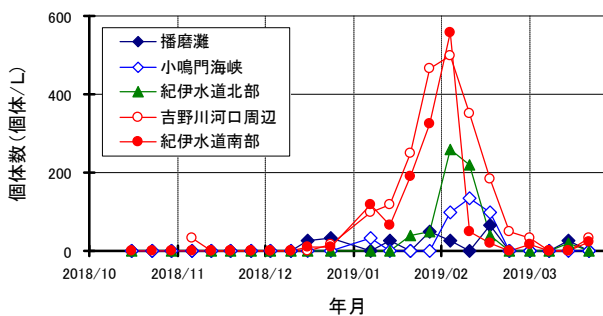


図3. 各海域における *Coscinodiscus walesii* の密度の変化.

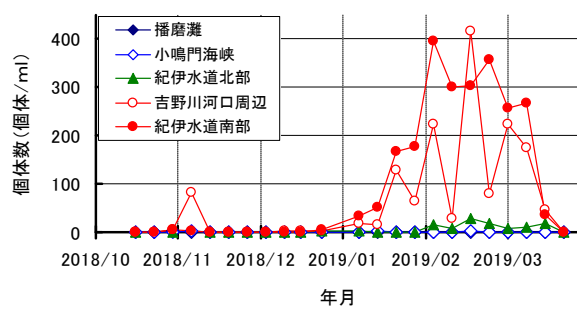


図4. 各海域における *Eucampia zodiacus* の密度の変化.